

クールアースいばらき

●●●●●茨城県地球温暖化防止活動推進センターだより●●●●●

「クールアースいばらき 2025 大会 水戸ホーリーホック 最優秀賞 受賞」 〈脱炭素チャレンジカップ 2026 大会へ〉

8月22日（金）にホテルレイクビュー水戸にて、「クールアースいばらき 2025 大会」を開催いたしました。

本大会は、県内の事業所、学校及び地域などでのエコ活動（脱炭素社会にむけた取組）を広く周知することで、行動の「環」を広げ、全国に向けて発信することを目的としています。

今年も多くのエントリーがあり、事務局で一次選考を行った結果、「段ボールコンポスト普及会」「長方屋」「株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック」「キャノン化成株式会社 施設環境部」の4団体に発表いただき、当日来場いただいた茨城県地球温暖化防止活動推進員ほか約100名によって投票を行いました。

その結果、「株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック」が高い評価を得て最優秀賞となりました。来年2月20日（金）に開催される我が国最大級の脱炭素プレゼン大会「脱炭素チャレンジカップ 2026」に茨城代表として出場が決定いたしました。（次項へ続く）

最優秀賞「株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック」



◆◆◆◆◆ INDEX ◆◆◆◆◆

クールアースいばらき 2025 大会のご報告	P1～P3
第1回推進員研修会が開催されました	P3
使ってみよう！新・貸出物ツール	P4
いばらきデコ活チャレンジカップ参加者募集中！	P4
環境展への出展報告	P5
Kids デコ活 SDGs Eco Cup Mito 2025 のご報告	P6
釣り魚有効活用促進事業	P7
夏休みの親子向けイベントへ協賛	P7
推進員活動報告レポート	P8
水戸ホーリーホックゲームでエコ工作	P8



発表・受賞の様子





クールアースいばらき 2025 大会のご報告

5月より募集を開始した「クールアースいばらき 2025 大会」には、今年も多くの特団からエントリーが寄せられ、事務局による審査の結果、以下の4団を選出しました。大会当日は推進員、市町村担当者、一般参加者など約100名が審査員となり、各団体の発表に対して以下の7項目で評価を行いました。

①地域特性 ②独自性 ③連携 ④継続性 ⑤発展性 ⑥CO₂削減効果 ⑦プレゼンテーション力

これらの評価項目の合計点により、最も高得点を獲得した団体が「最優秀賞」として選ばれます。その結果、「株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック」が高い評価を受け、見事最優秀賞を受賞しました。

以下に、出場した4団体の「脱炭素の取り組み」に関するプレゼンテーションの概要をご紹介します。

【最優秀賞】「株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック」

新しい原風景をこの街に 気候アクション脱炭素の実装



当クラブは夢と感動と一体感の共有に向けて、地域に根ざし、地域と歩み、地域に貢献し、地域と共に発展することがビジョンです。脱炭素につながる催しとしては、2020年のコロナ禍前10年間、ペットボトル分別回収を毎試合実施。子供たちの夏休みエコ工作は2010年から夏休み期間のホームゲーム3試合で地球温暖化防止活動推進センターの協力を得て続けています。昨シーズンからは茨城県センター主催の「デコ活チャレンジカップ」に賛同し、サポーターに実装レポートを提出いただいています。昨年度は22.5tCO₂が削減できました。

また、事業系では農事業の地域課題解決に向けてGXプロジェクトに邁進。

耕作放棄地を再活用したソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)を開設。

起こした再エネ電力を地域で使うGX圃場が誕生しました。上記脱炭素アクションにより60tCO₂削減につながりました。

【優秀賞】3団体



「段ボールコンポスト普及会」

資源循環教育「段ボールコンポストでSDG s 学校花壇作り」

学校給食の残渣を堆肥化し、できた堆肥で花壇を作る「資源循環教育」を推進するため、つくば市内小中学校2校と1施設の理解と協力を得て「段ボールコンポストでSDG s 学校花壇作り」を企画しました。子どもたちが体験する微生物による堆肥づくり、それを使つての「SDG s 花壇」はごみ削減や温暖化防止、食品ロスへの関心を高め、多くの学びに繋がりました。学校の一角に花が咲き、子どもたちの癒しの場、共に花を守り育てる気持ちを育む場となっています。



「長方屋」

いば食有効活用プロジェクト Part 2」

稲作が盛んな茨城県では、稲刈り後のもみ殻が地域組合へ多量に運び込まれるが翌年の新米季節前に焼却処理となります。このもみ殻を何とかしてほしいとJAから相談を受けました。弊社では、燃やさない熱分解処理でパウダーにしてみたところ90%がシリカでした。そして「シリカサプリメント穂の華」が誕生し、ふるさと納税返礼品に。

Cycle 成功で更に増えるもみ殻。社長は人の健康に欠かせないシリカに没頭しました。

その結果、入浴剤の他、茨城ブランド猿島茶メーカー松田製茶とコラボ。試行錯誤の結果、シリカパウダー入り「5種類のブレンドTea」開発に成功。アップサイクルと削減できたCO₂は年間約50tの削減につながりました。



「キャノン化成株式会社 施設環境部」

製造業としての責務～省エネで未来を照らす持続可能な組織づくり

キャノン化成株式会社では温室効果ガス削減に貢献するため省エネパトロールや省エネ診断を実施し継続的に省エネ活動の改善を図っております。この活動を通じて各職場自走の省エネ活動を実施しエネルギー削減への意識が向上しております。

製造部門、技術部門、品質部門、管理部門の各職場が連携・連動し、持続可能な省エネ体制が構築された結果、毎年約 2,500 t CO₂ 以上の削減効果を得ております。



集計作業の間には、劇団シンデレラによる講演が行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。審査員や参加者の皆様は、心に響くメッセージや表現力豊かな演技に引き込まれ、ひとときの感動と癒しを味わいました。

今回発表を行った4団体の脱炭素への取り組みは、いずれも団体や企業の特性を活かした創意工夫に富んだものであり、非常に素晴らしい内容でした。各団体の熱意あるプレゼンテーションを通じて、審査員一同、地域での多様な取り組みを知る貴重な機会となりました。

審査員からは、「各団体の取り組みが非常に参考になった」「地域での具体的な活動内容を知ることができて大変有意義だった」といった声が多く寄せられ、今回の大会が地域間の学びと連携を促す場となったことを実感しています。今後も、こうした取り組みが広く共有され、地域全体での脱炭素の推進につながっていくことを心より願っております。

第1回推進員研修会が開催されました ～ラムサール登録湿地を守り発展に導くスピリット～

2025年8月22日(金) ホテルレイクビュー水戸 来場 122人



ユースラムサールジャパン代表・戸荻辰弥氏に加え、全国のラムサール条約登録湿地で活動するユースメンバーも登壇し、それぞれの地域での取り組みや、活動を通じて得た学び、そして湿地保全の重要性について熱く語りました。

講演では、「湿地を知り、守り、伝える」ことを軸に、ユース自身が企画・運営する多彩な活動が紹介されました。ラムサール条約の理念である「CEPA（広報・能力開発・教育・普及啓発）」と「ワイズユース（賢明な利用）」を实践する取り組みとして、地域の子どもたちを対象としたワークショップの開催、環境イベントへの参加、湿地の現地取材と情報発信、さらには動画制作など、幅広い活動が展開されています。

動画制作プロジェクトでは、2022年度から2024年度にかけて、全国53カ所のラムサール条約登録湿地を対象に、ユースメンバーが自ら現地を訪れ、ショート動画や紹介映像を制作しました。これらの動画はYouTube上で公開され、計93本ののぼるコンテンツが発信されました。総再生回数は13,704回に達し、湿地の魅力や価値を多くの視聴者に届ける成果を上げています。映像には、地域の自然環境や生物多様性、地元の人々との交流の様子などが丁寧に描かれており、動画の視聴者にとっても湿地との新たなつながりを感じるきっかけとなっています。

講演の終盤では、「湿地を守るとは未来を守ること」という力強いメッセージが発信され、参加者一人ひとりが湿地保全の意義を改めて認識する時間となりました。若者たちの真摯な姿勢と行動力に触れたことで、会場全体が前向きなエネルギーに包まれ、今後の地域での活動への期待が高まりました。





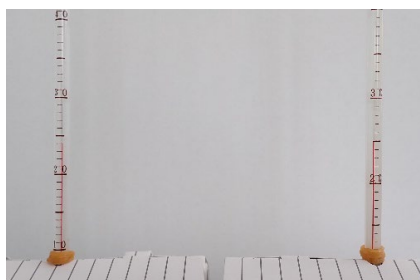
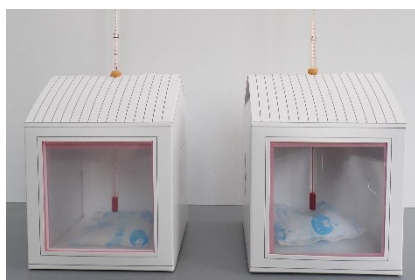
使ってみよう！新・貸出物ツール

当センターでは 2025 年度より新たに 2 種類の貸出ツールを導入しました。活用方法についてご紹介いたします。この貸出ツールを使って、より効果的な普及活動を行っていただけます。ぜひご活用ください。

【家模型ワークショップ実験キット】

この実験キットは、遮光・断熱・風通しの 3 つの基本実験に加え、さまざまな応用実験ができる教材です。組み立てが簡単で、短時間でも効果的な授業が行えるため、学校やワークショップでの活用に適しています。

家の模型を使った実験を通して、自然環境を活かした住まいの工夫を体験的に学ぶことができ、「快適な住まい方」のポイントをしっかりと理解できます。省エネにつながる断熱材などの普及啓発にも役立ちます。



断熱の実験

左は断熱材あり、右は断熱材なし。

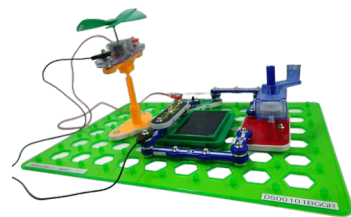
保冷剤を入れて温度を比べました。

スタート時は 28℃。

5 分後、左は 24℃、右は 25℃になり、断熱材の効果が見られました。

【電脳サーキットクリーンエネルギー】

水力、風力、太陽光など、自分で作った電気を実験ができるサイエンス玩具です。太陽光電池で風車を回す、ためた水で発電する、風車で発電した電力でホーンを鳴らすなど、代替エネルギーを利用した実験が多数（133 通り）登場。環境に優しい発電方法が体験できます。



いばらきデコ活チャレンジカップ参加者募集中！

表彰式は 2026 年 1 月 25 日(日) 13:00 から水戸プラザホテル ～県知事賞などのデコ活チャレンジ！～

当センターでは、環境省および茨城県の後援のもと、県民・企業・団体の皆様とともに、脱炭素社会の実現を目指す取り組み「いばらきデコ活チャレンジカップ」を開催しています。

応募部門は 2 つ

1. 家庭の電気使用量部門

2024 年と 2025 年の同じ期間の電気使用量を比較し、削減できた使用量をご記入ください。

2. 実践しているデコ活運動部門

買い物・移動・エネルギー利用など、日常の脱炭素行動について、44 項目の質問に回答していただきます。



<昨年度表彰式の様子>



家庭の電気使用量部門
応募フォーム



実践しているデコ活運動部門
応募フォーム

左の応募フォームにアクセスしてください。
皆さまのご応募をお待ちしております。

現在、9 月の時点で 127 件の応募が寄せられており、多くの方がすでにチャレンジに取り組んでいます。応募内容は、CO₂削減量を基準に評価され、削減量が多かった方には茨城県知事賞などの表彰が贈られます。



環境展への出展報告

当センターでは、2025 年度も県内各地で開催された環境関連イベントに積極的に出展し、環境保全への理解促進と行動喚起を目的とした啓発活動を展開しています。各イベントでは、体験型の展示やワークショップを通じて、来場者に楽しみながら環境について考えていただける機会を提供しました。

■つくば環境エコフォーラム 2025 (5 月 10 日)

つくば市で開催された「つくば環境エコフォーラム 2025」では、再利用素材を活用した「エコランタン工作」を実施。親子連れを中心に多くの方が参加し、工作を通じて資源の有効活用や省エネの大切さを体感していただきました。完成したランタンを手にした子どもたちの笑顔が印象的で、環境への関心を育むきっかけとなりました。



つくば環境エコフォーラム

■環境フェスティバル那珂 2025 (6 月 8 日)

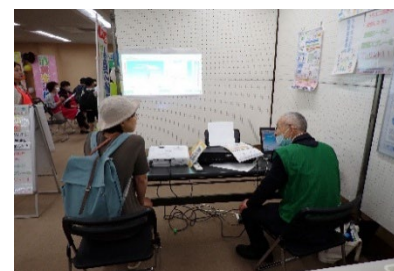
那珂市で開催された「環境フェスティバル那珂 2025」では、「デコ活」パネル展示やチラシの配布を行い、家庭でできる脱炭素行動を紹介しました。屋外では大気環境測定車「みどり号」を展示し、実際の測定機器を間近で見ること、空気と暮らしの関係について理解を深めていただきました。



環境フェスティバル那珂

■エコフェスひたち 2025 (6 月 28 日)

日立市で開催された「エコフェスひたち 2025」では、「うちエコ診断」を実施し、光熱費や CO₂ 排出量の“見える化”と節約アドバイスを提供。エアロバイク型発電機や木工ワークショップも好評で、親子で楽しく環境への理解を深める機会となりました。また、当センターが主催する「いばらきデコ活チャレンジカップ」へのご案内も行い、多くの方に興味を持っていただきました。



エコフェスひたち

■日立ハイテク盛夏祭 (8 月 1 日)

会員事業所である株式会社日立ハイテク那珂地区が主催する「日立ハイテク盛夏祭」に出展。パネル展示のほか、LED と電球のエネルギー比較実験器や燃料電池車、エアロバイク型発電機の体験などを通じて、再生可能エネルギーや省エネ技術について楽しく学べる場を提供しました。特に燃料電池車の展示には多くの来場者が足を止め、次世代のエネルギー技術に対する関心の高さがうかがえました。「いばらきデコ活チャレンジカップ」の案内も継続して行い、企業と地域が連携した環境活動の重要性を発信しました。



日立ハイテク盛夏祭

■霞ヶ浦 ECO フェスティバル 2025 (8 月 24 日)

霞ヶ浦環境科学センターで開催された「霞ヶ浦 ECO フェスティバル 2025」では、うちエコ診断、オリジナルのコースターづくり、エアロバイク型発電機の体験を実施。来場者の関心も高く、環境に配慮した暮らしへのヒントを持ち帰っていただくことができました。特に、子どもたちがエアロバイクをこいで発電する体験には笑顔があふれ、エネルギーの大切さを体感する貴重な機会となりました。



霞ヶ浦ECO フェスティバル2025

これらの活動を通じて地域の皆さまと対話し、環境への理解を深め、行動につなげるきっかけをつくることができました。今後も、より多くの方に環境への関心を持っていただけるよう、取り組みを展開してまいります。

 暮らしの中のエコろがけ

Kids デコ活 SDGs Eco Cup Mito 2025 のご報告

2025 年 8 月 24 日(日)水戸プラザホテル 来場 170 人

「Kids デコ活 SDGs Eco Cup Mito 2025」が水戸プラザホテルで盛大に開催されました。本イベントは、環境省が推進する国民運動「デコ活」の一環として、当センターが主催。水戸市や地球温暖化防止全国ネット、茨城生物の会、千波湖水質浄化推進協会、逆川こどもエコクラブなど、多くの団体の協力のもと実施、約170名の方にご参加いただきました。

今年で4回目の開催となった本大会では、開会にあたり主催者側より川島省二センター長に続いて高橋靖水戸市長が挨拶、茨城県地球温暖化防止活動推進員の衆議院議員・参議院議員・県議会議員・市議会議員の皆様も来賓として出席され、地球温暖化の危機に立ち向かう子どもたちの取り組みの重要性について力強いメッセージが届けられました。



また、茨城県エコカレッジ体験コースの受講生約40名も参加し、フォーラム運営を学ぶ貴重な機会となりました。茨城県生活環境部環境政策課長の市村雄一様からは、環境教育の意義と若い世代への期待が語られました。

第1部では、環境省地球環境局脱炭素ライフスタイル推進室の東海林帆主査による講演が行われ、「デコ活」の目的や地域での実践事例、今後の展望が紹介されました。「デコ活」とは、脱炭素（Decarbonization）とエコ（Eco）を組み合わせた造語で、持続可能なライフスタイルへの転換を促す取り組みです。

続く第2部では、茨城生物の会の先生方による「昆虫標本づくり」が開催されました。子どもたちはチョウやカブトムシを使って標本を作成し、自然とのふれあいを通じて昆虫の生態や環境保全の大切さを学びました。

最後の表彰式ではGW明けから募集した約100件の応募の中から、厳正な審査を経て選ばれた受賞者がステージに登壇。



スポンサー賞、優秀賞、最優秀賞、水戸市長賞などが発表され、協賛団体から表彰状と副賞が贈られました。ステージに立つ子どもたちは堂々としており、会場からは温かい拍手が送られました。

水戸市環境保全課からは「家庭からの使用済み食用油回収実証事業」の紹介があり、家庭でできる環境活動への関心が高まりました。

閉会にあたり、主催者の親法人である一般社団法人 茨城県環境管理協会の森島康理事長より総評と挨拶があり、子どもたちの活動が地域の未来を照らす希望であることが力強く語られました。



☆以下、表彰状と記念品の提供に協力いただきました事業所の皆様方に感謝申し上げます☆

水戸市、株式会社 茨城新聞社、株式会社 伊勢基本社 水戸プラザホテル、株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック、株式会社 ヌマタ商事 バンビ鞆工房、沼田クリーン 株式会社、逆川こどもエコクラブ、水戸ヤクルト販売株式会社、水戸昆虫研究会、茨城昆虫同好会、茨城生物の会、有限会社マテリアル茨城 長方屋、株式会社ニッカン、株式会社 PureCycleいばらき、株式会社 日省エンジニアリング、株式会社 笠間工芸の丘、有限会社 大洋土づくりセンター、千波湖水質浄化推進協会、株式会社 ジーエスケー茨城、株式会社 エコツー技術研究所（順不同）



釣り魚有効活用促進事業

～一般社団法人 茨城県環境管理協会の活動のご報告～



釣り人からの回収の様子



肥料へと再利用されます

当センターの親法人である一般社団法人 茨城県環境管理協会では、昨年度に引き続き、茨城県からの委託を受けて「釣り魚有効活用促進事業」を実施しています。本事業は、釣り人が釣った魚を指定の回収場所に持ち込むことで、飼料原料として再利用し、養殖魚や家畜のエサとして活用する取り組みです。

今年度の回収場所は「霞ヶ浦環境科学センター」「天王崎公園」「こいこい物産館」の3カ所で、4月から11月までの期間中、指定された土曜日に全12回開催しています。回収時間は午前10時から午後12時30分までです。

9月13日に実施された第9回終了時点で、総合計重量は約2,182kg、個体数は2,985匹を超え、着実に成果を上げています。なお、9月27日開催の第10回は終了しましたが、今後は10月18日(土)の第11回、そして今年度最終となる11月15日(土)の第12回を予定しております。

釣りを楽しみながら、環境保全や資源循環に貢献できるこの取り組みに、ぜひご参加ください。皆さまのご協力を心よりお待ちしております。



釣り魚有効活用促進事業

(茨城県 HP)

夏休みの親子向けイベントへ協賛

～一般社団法人 茨城県環境管理協会の活動のご報告～



日野自動車古河工場
「ビオトープKOGA夜の昆虫観察」240人参加

2025年7月11日、日野自動車古河工場にて「ビオトープ KOGA 夜の昆虫観察会」が開催され、近隣から多くの親子が参加しました。広大な緑地に新設されたビオトープでは、水草の植樹体験や昆虫採集が行われ、子どもたちは、当協会職員が“生物の先生”として対応する中で、質問しながら楽しく学びました。夜には特殊な光を使用するライトトラップを行い、光を浴びた布に集まってくるカブトムシやクワガタを観察。さらに、地球温暖化防止活動推進員グループの「エコ倶楽部桃花」「econet みらい」により、牛乳パックを使

ったエコ提灯や保冷剤作りも行われ、参加者の環境意識向上に貢献しました。自然への関心の高まりが感じられる大盛況なイベントとなりました。

続いて、7月25日には北茨城市の高北清掃センターにて「2025 環境講座」第1回「夜の昆虫観察会」が開催され、地域の親子119名が参加しました。夕焼けの雑木林で昆虫採集を行い、ヒグラシの声やセミの抜け殻、樹液に集まる昆虫などを観察。高北清掃センターからはかき氷のふるまいもあり、親子連れの笑顔があふれました。夜には、当協会昆虫専門の染谷保と茨城県環境アドバイザー佐々木泰弘先生の解説とともに、ライトトラップでコガネムシやノコギリカミキリムシなどを観察。大型の昆虫が飛来した際には子どもたちは大興奮でした。自然とのふれあいを通じて、貴重な学びの場となりました。



高北清掃センター
「2025 第1回 環境講座」119名参加



推進員活動報告レポート

推進員の皆様の活動報告を、写真を添えて一言お寄せください

久米麻里 推進員（水戸市）

霞ヶ浦にて、外来種アメリカナズ釣り & クッキング。命に感謝！



econet みらい(水戸市)

日野自動車(株)古河工場で保冷剤づくりワークショップを開催しました



梅原優希 推進員(ひたちなか市)

山田 湖 推進員(水戸市)

千波湖環境学習会で生き物採集



西口利雄 推進員（鹿嶋市）

SDGsの会主催で「鹿嶋市リサイクルセンター見学」の実施



立川記子 推進員(つくば市)

エフピコさんのボトルtoトレ技術を見学最新のリサイクルに感激しました



中邨祥司 推進員(筑西市)

黒川雄輝 推進員(桜川市)

目指せ県知事賞！デコ活チャレンジカップ PR



当センターは「地球温暖化防止対策の推進に関する法律」により、平成 16 年 10 月茨城県知事より、茨城県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けて活動をしております。県民の皆様に向けて温暖化防止に関する普及啓発や広報活動を行うとともに、茨城県や市町村、各種団体、事業所、地球温暖化防止活動推進員と連携・協力して各種イベント・フォーラム・環境学習会などの実施と情報提供を行っています。

水戸ホーリーホックゲームでエコ工作



当センターでは、2025 年 6 月 14 日、28 日、7 月 12 日に水戸ホーリーホックのホームゲーム会場にて、エコ工作ブースを出展しました。推進員グループ「econet ユース」「econet みらい」「econet みと」の 3 団体の皆さまにご協力いただきました。新聞紙を使った紙バッグづくりや段ボールペン立て、SDGs をテーマにした缶バッジづくりなどを通じて、身近な素材の活用やリサイクルの大切さを伝えました。また、保冷剤を使った工作では、冷蔵庫で冷やした保冷剤を首元や手首に当てることで、電気に頼らず涼をとる工夫も紹介しました。どの回も、子どもたちは目を輝かせながら工作に取り組み、完成品を手にしたときの笑顔がとても印象的でした。保護者の方からも「楽しく学べてよかった」と好評をいただき、環境への関心を深めるきっかけとなりました。今後も、スポーツと環境をつなぐ取り組みを通じて、地域の皆さまとともに持続可能な社会づくりを進めてまいります。



編集・発行：茨城県地球温暖化防止活動推進センター（一般社団法人 茨城県環境管理協会）

住所：〒310-0836 水戸市元吉田町 1736-20 TEL：029-248-7431 FAX：029-240-1270

E-mail：ibaonse@kankyokanri.or.jp URL：https://www.kankyokanri.or.jp